

# 11月5日(金曜日) 都小社4年部会 検証授業② 協議会記録

1. 都小社会長あいさつ

2. 会場校 校長あいさつ

3. 担当校長 挨拶・講師紹介

4. 部会提案

5. 授業者自評

①教材について

- ・北区の副読本として、9月に配布された。社会だけでなく、国語や道徳も含めたものになっている。北区の教員が作成したもの。
- ・養育院に焦点をあてたのは、北区の教員のアイデア。たくさんの切り口の中から、これを選んだのはすごいこと。
- ・学芸員や資料をいろいろ調べていくと、渋沢は学習指導要領に収まりきらない人物。
- ・資料から「本当にこれが事実であると言えるか」ということもあった。例えば、養育院を引き受けた時に人間平等の考えがあったかどうかは不明。研究されている人によって見解が異なることもある。「養育院をなぜ作ったのか？」についてははっきりとした資料がない。
- ・栄一は「人間味にあふれている。」が、「どう切り取ったら良いのか？」が難しかった。
- ・玉川兄弟は、「水が不足している」という課題を解決し、広く都民を救っていった。渋沢は養育院を作ったわけではない。栄一は、政府がつくったものを、引き受けた。「困っている人たちがいたから」というより「関わっていくうちに救いたくなっていく。」一部の人のためであり都民全体とは言えないのではないかとも思った。

②本時について

- ・時間が足りず、まとめの共有できなかった。調べることに時間がかかった。
- ・調べた結果として、議員を説得したことを1番にあげてほしかった。
- ・歴史的事象を調べるときには、順序性が重要になってくるのではないか。それか事実を発表しあって、捉えてもいいのだろうか。今回は、養育院の閉鎖が決まったから、渋沢個人の施設として、バザーを開催した。分かったことから発言していくのはいいのであろうかと思った。

## 6. 研究協議

北区立西が丘小の清水先生

・チャレンジな提案ありがとうございました。今までも取り上げられたが、失敗が多かった。それは偉大すぎて東京ではなくて、日本の発展に貢献しているからだと感じていた。渋沢は会社や銀行など多くの事業を行っているため、4年生には難しいのではないかな。

- ①日本全体に影響が大きい人物だった。養育院以外の切り口があったか？
- ②日本から入っていたことは、子供にとって広がりすぎて難しくなかったか。
- ③養育院に携わったことが東京(地域)の発展につながったかと言えるのか？養育院で関わっているのは一部の
- ④1年間の費用はどれくらい？
- ⑤渋沢の個人寄付はいくら？6800万円の価値と比べられるのではないかな。

子供の実態に合わせるのが、一番ではないかな。歴史通りにやってわからなくなるのであれば、わかりやすくしているほうがいいのではないかな。

渡邊先生

- ①切り口について:子どもたちにとって身近なことは何かを考えていた。駅前に「みずほ銀行」がある。渋沢が東京に関わる会社作ったり、東京都に会社を作ったりして、現代に繋がっている企業も多い。養育院につなげるために、工夫をしてきた。
- ②つかむの段階で、明治すぐろくで遊んだ。日本全国に関わるものや、現代に関わっていることが多いことを実感させ、それを地図で東京に狭めていった。
- ③渋沢の考えは残っている。この考えが広がっていったと言えるのではないかと部会でも話ができた。当時では認められなかった考えが、今では一般的な考えとして受け入れられている。未来東京戦略の言葉を解き明かしていくと、現代では福祉の考えを反対する人がいない。当時は反対していた。渋沢の考えが広がって、今の人に伝わってきたと言えるのではないかな。
- ④⑤今後調べる。

6年部会 西村先生

- ①第3時の学習計画をたてる学習の流れが知りたい。
- ②資料の文字数が1000字を超えている。6年生でも500字くらい。左側のページを軽くしてもよかったのではないかな。どいう意図でこの形になったのか。
- ③自分は調べる段階では、思考ツールを使ってまとめている。同心円チャートを使って共有をしている。共有段階の工夫があれば教えてほしい。
- ④調べる段階で、問い返している。この言葉を選んだ意図は？「なぜ」と聞いたから方法論が出てしまったのではないかな。

渡邊先生

- ①年表をもとに考えた。下線を引きながら、事実を捉えていった。予想が出るように意図して下線をひいた年表を作成した。
- ②多かったと実感している。提示の仕方は工夫が必要だった。
- ③資料に下線を引き、それをノートに箇条書きで書いたり、文章に書いたりさせている。
- ④第1時で渋沢の偉大さを捉えさせていたので、それを関連付けてほしかった。渋沢栄一だから来てくれたと、つなげたかった。

## 7. 指導講評 国学院大学 人間開発学部 初等教育学科 教授 安野 功先生

- ・ねらい通りに渋沢の努力、工夫、協力が整理された授業であった。
  - ・本単元は6年生の歴史につながる単元である。

解説書110ページの「今日の自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っている」とある。4年生では、自分たちの地域にもいる先人たちに触れる。自分で聞きに行ったり、調べたりすることができるなど、自分たちの生活に密着しているからである。
  - ・4年生は人物と出会わせて何をさせたいのか。解説書より「当時の世の中の状況」や「人々の願い」を捉えさせたい。

渋沢は説得を試みるが、当時の人は「貧しい人を甘やかしている」と聞き入れられず、説得は失敗し、養育院は閉鎖となった。しかし、バザーを開催したら、協力してくれる人が出てきた。授業はアウトラインが流れただけであり、この説得内容を
  - ・「渋沢の福祉への貢献は大きい」（安野先生持参の書籍より）
  - ・欧米流の福祉事業に出会っている。パリ万博での出会いがあり、実体験をもとに明治時代を良くしていこうとしていた。
  - ・渋沢の全てを教材にしようとしたら無理。その中から、どれぐらいピンポイントで山場にすることができるのか。
- ◎いい指導計画だけど、落とし穴にはまっている？!
- ・「渋沢はどのように養育院に関わっていったのか」関わるとはどういうことか。子ども達には抽象的でわからないのではないか。
  - ・渋沢に身を置いて考えさせていく。（どんな課題があったか、どんな言葉で説得するか）
  - ・大人が設定したまとめの裏返して問を作っているように感じる。子どもの問いにし、子どもの意識をつなげていくようにしなければいけない。
  - ・「江戸の感染防止」から入ればよかった。1万円札から入る必要はない。
- ◎学習問題
- ・子供の問題意識が繋がっていないといけない。
  - ・無理にデザインしても、子供の思考に乗らないのではないか。
- ◎副読本について
- ・副読本（素材）は子どもに持たせておく。教師が小出しするのではなく、子どもが主体的に追究できるようにしておく。
  - ・学習活動化（子供が自分から追求するように）
  - ・資料の形式は、タブレットから自分で引き出せるようにしていく。
- ◎今後について
- ・素材ができた。次は教材化。
  - ・論点が生じる場面を考えて、論じさせる!
  - ・今後の教師の役割は?
  - ・子供の手元が見られるようになっている。

## 8. 謝辞